

『都道府県審判指導員マニュアル第1版』修正一覧

ページ	現 行	修 正	備 考
134	<p>(10) 2 塁への偽投に引き続いての要送球</p> <p>(b) 走者が 2 塁単独の場合</p> <p>① 塁上の走者が 2 塁単独の場合、2 塁に正しく偽投をしたときに、2 塁走者が 3 塁へ走ったときは、投手板に触れている投手は、正しく踏み出せば、走者が向かった塁にプレイ（送球または偽投）をすることができます。</p> <p>A) 投手が 2 塁へ正しく踏み出して偽投をしたところ（軸足が投手板からはずれていない）、走者が 3 塁へ走ったため、投手板に触れている投手が、3 塁へ正しく踏み出して投げる（または偽投する）ことは、必要なプレイであるため許されます。</p> <p>B) 投手がセットポジションをとっているとき、2 塁走者が 3 塁に走ったので、投手板に触れている投手が、第一動作で正しく踏み出して 3 塁へ投げる（または偽投する）ことは、必要なプレイであるため許されます。（規則 8.05(d)）</p>	<p>(10) 2 塁への偽投に引き続いての要送球</p> <p>(b) 走者が 2 塁単独の場合</p> <p>① 塁上の走者が 2 塁単独の場合、2 塁に正しく偽投をしたときに、2 塁走者が 3 塁へ走ったときは、投手板に触れている投手は、正しく踏み出せば、走者が向かった塁に送球することができます。</p> <p>A) 投手が 2 塁へ正しく踏み出して偽投をしたところ（軸足が投手板からはずれていない）、走者が 3 塁へ走ったため、投手板に触れている投手が、3 塁へ正しく踏み出して投げることは、必要なプレイであるため許されます（規則 8.05(d)）。ただし、偽投した場合はボークとなります（規則 8.05(b)）。</p> <p>B) 投手がセットポジションをとっているとき、2 塁走者が 3 塁に走ったので、投手板に触れている投手が、第一動作で正しく踏み出して 3 塁へ投げることは、必要なプレイであるため許されます（規則 8.05(d)）。ただし、偽投した場合はボークとなります（規則 8.05(b)）。</p>	規則改正に伴う変更

		<ul style="list-style-type: none"> ■ ここでいう「必要なプレイ」かどうかは、審判員が「走者が3塁に進もうとしたか」、あるいは「その意図が見られたか」で判断します(規則 8.05(d)【原注】)。このとき、走者が塁間の半分を超えていたかどうか、審判員の判断の一つの目安となります。 ■ 関連して、走者がいるとき、投手が投手板から軸足をはずして、走者のいない塁に送球または送球するまねをした場合、投手の遅延行為とみなしてボークとなることにも注意が必要です。(アマ内規⑫) 	
137	<p>(13)その他</p> <p>② 投手は、投手板を囲む18フィートの丸い場所の中で、投球する手を口または唇をつけることを禁止されています。(規則 8.02(a)(1))</p> <p>A) ただし、投球する手を口または唇につけても、投手板に触れる前に、その手をきれいに拭きとれば問題ありません。</p>	<p>(13)その他</p> <p>② 投手は、投手板を囲む18フィートの丸い場所の中で、投球する手を口または唇につけた後にボールに触れるか、投手板に触れているときに、投球する手を口または唇に触れることを禁止されています。(規則 8.02(a)(1))</p> <p>A)を削除し、以下を繰り上げる。</p>	訂正

ページ	現 行	修 正	備 考
137	<p>(13)その他</p> <p>④ 投手は、いかなる異物でも、身につけたり、所持したりすることを禁止されています。(規則 8.02(b))</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 投手がこの規則に違反した場合、日本のアマチュア野球では、警告をして、異物を取りはずさせます。 	<p>(13)その他</p> <p>④ 投手は、いかなる異物でも、身につけたり、所持したりすることを禁止されています。(規則 8.02(b))</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 投手がこの規則に違反した場合、日本のアマチュア野球では、警告をして、異物を取りはずさせます。 ■ 2015年度の規則改正により、投手は、いずれの手、指または手首に何も（たとえば、救急ばんそうこう、テープ、瞬間接着剤、ブレスレットなど）つけてはならないことになりました(規則 8.02(b)【原注】)。なお、このことについては、所属する団体の規定に従うこととしています。 	規則改正に伴う追加